

成果報告書

湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」

環境情報学部 加藤文俊

1 集会名称

モバイルリサーチ：「こもろ・日盛俳句祭」のドキュメンテーション

2 目的・経過

2010年8月1日（土）～3日（月）にかけて、小諸市で開催された「こもろ・日盛俳句祭」に参画しながら、地域活性のためのイベント企画・運営を巡る諸問題について考えるワークショップを実施した。とくに、運営サイドと参加者、ボランティアスタッフ等のコミュニケーション過程に着目することによって、交流型のイベントのあり方について体験的に学ぶことを目的とした。また、本プロジェクトの成果をまとめて参加者と共有し、イベント後のコミュニケーション（フォローアップ）の仕組みづくりについて検討した。

イベントを記録しておくことは、とても重要である。事後に写真や映像を見れば、当日の様子が、鮮やかに再現される。継続的にイベントを実施する場合には、とてもよい「教科書」となり、今後の計画に役立つ。そして、何よりも、記録するということが、楽しいプロセスである点を再認識する機会となる。今回は、「かわら版」によって、「こもろ・日盛俳句祭」を記録することにした。参加メンバーは、会期中に「かわら版」を5回ほど発行することを目指して、活動した。市民会館のロビーに、折りたたみ式の机とイスを並べて、ノート PC と小型のプリンターを設置し、簡易編集室として活用した。学生たちは、スタッフとしての仕事をしつつ、取材と編集をすすめた。

ここ数年、私たちは、調査や活動の成果を、できるかぎり「その場でつくって、その場で還す」というアプローチについて考えてきた。イベントの記録は、その場で、イベントの進行とともに共有されることが望ましい。そう考えた結果、「かわら版」という媒体がえられました。参加者には概ね好評で、即時的に発行するメディアの役割について考えるよい機会になった。

基金による支援は、ワークショップに招聘した講師謝金として活用した。

3 参加者

参加者 22名

講師 木村健世（アーティスト） 香川文（エディター）

教員 加藤文俊 環境情報学部 教授

学生「研究会」メンバー 19名（学部生17名・大学院生2名）

* メンバーリストは別紙を参照

4 成果の公開と今後の展開

リアルタイムドキュメンテーションの試みは、今回のような地域イベントにかぎらず、さまざまなワークショップ型学習環境において注目されている。成果については、ウェブで公開するとともに、年度内に簡単なリーフレットにまとめて関係者に配布する計画である。滞在中に制作したかわら版は、下記のサイトで参照できる。

<http://vanotica.net/komop2/05.html>